	*7 羊局	等専門学校	☆ 開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	特別開講(電子工学)		
对口书作	<u>(大工来(市)</u> 楚情報		אַד־הּשנויו ן	1 12 1HOO TIX (1 10/4/11	110000000 (-D1 T1)		
<u>17 口坐。</u> 科目番号	WE IH +IX	0012			科目区分	専門 / 必	·····································		
授業形態		授業			単位の種別と単位		履修単位: 1		
開設学科			 学科(情報科学・工学	· 茶共通科目)	対象学年	3			
開設期		後期		1 1 /	週時間数	2			
教科書/教	材	松安晴, の基礎知	杉山進 田中克彦 藤井信生監修「電子]識」工学図書,尾崎 ジスタ回路を学ぶ人	⁻ 回路入門」実教出 弘他「電子回路ア	・ ロボティクスシリーズ2 電気電子回路」 (コロナ社)/参考図書:末 版/藤井信生「なっとくする電子回路」講談社,津田利春「電気と電子 ナログ編」共立出版,砂沢学「増幅回路の考え方」オーム社,曽和将容				
担当教員		稲川 清							
到達目標	 票	•							
2) 本講	義で得た知	造・動作・特 識を使用して	特性に関する基礎知識 「ダイオード・トラン	戦、増幅回路の動作 レジスタを用いた基	解析における考えが 本的な回路について	ちを理解し, 説はて, 回路の入出さ	月できる。 ケの関係を求める等の課題を解ける。		
ルーブリ	フック		田相のナンがきし		無法的もないましょ		ナがましかりの日立		
4 V/V×	<u></u>	`# #L/F W	理想的な到達レク		標準的な到達レベ				
生に関す	る基礎知識、 における考え	造・動作・特 、増幅回路 <i>0</i> え方を理解し	の 関する基礎知識、増幅回路の動作		半導体素子の構造 関する基礎知識、 解析における考え 準的なレベルで訪	増幅回路の動作 方を理解し,標	■性に関する基礎知識、増幅回路の		
イオード 基本的な[・トランジ! 回路につい [*]	を使用してタ スタを用いた て,回路の <i>別</i> 等の課題を角	た │ード・トランジスタを用いた基本 入 │的な回路について,回路の入出力		講義で得た知識を ード・トランジス 的な回路について の関係を求める等 的なレベルで解け	(夕を用いた基本 , 回路の入出力 の課題を、標準	ード・トランジスタを用いた基本 的な回路について,回路の入出力		
学科の	到達目標工	項目との関	[係						
CP2 各的基础 的中型基础 CP4 他 人間目標 学校目標 学科目標	盤知識, お。 君を理解・ Ⅱ 実践性 D(工学基 D(丁学基	専門基盤知記 よび実験・3 尊重し,協信 「一様」数学, 「一様」数学,	≧習および富習・実持	を通してその知識 -ション能力と人間 および工学の基礎 および工学の基礎	版を社会実装に応用・ 引力 7 CP4 他者を 知識と応用力を身に 知識と応用力を身に	・実践できる力 理解・尊重し, つける つける	用・実践できる力 5 CP2 各系の工 協働できるコミュニケーション能力 5用できる		
教育方法		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		2 / 42:3/ 42:30	. , ,				
既要	413	本講義で	は,まず半導体と,現在の電子回路における基本構成要素であるダイオード,バイポーラトランジスタ 作原理を学ぶ。併せて、ダイオード、バイボーラトランジスタ、FETそれぞれを用いた基本的な回路の				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
			川が生を子が。川で	!て、タイオード、	バイポーラトランシ	素であるタイオー ジスタ、FETそれ	- ト,ハイボーフトフンシスタ,FET Lぞれを用いた基本的な回路の動作を		
	め方・方法	ぶ。 基本的 成績に また,	コにはオンデマンドに は、定期試験40%, 至 再試験・再評価を実	よる座学が中心と 別達度試験30%, ※ 施する場合がある	バイポーラトランシ 	ジスタ、FETそれ 3・到達度試験を 30%の割合で評	こだれを用いた基本的な回路の動作を 		
受業の進む	め方・方法	ぶ。 基成まる 同算な自よ 計 い り り い り り り り り り り り り り り り り り り	にはオンデマンドに は、定期試験40%, 発 再試験・の結果を最大 車試験の結果を最大 連論の基礎りはですがあた。 連続している。 はは、では、 はは、では、 はは、では、 はいるので、 はいるで、 はいるで、 はいるで、 はいるで、 はいるで、 はいなで、 はいなで、 はいなで、 はいなで、 はいなで、 はいなで、 はいなで、 はいなで、 はいなで、 はい	よる座学が中心と 別達度試験30%, 施する場合がある 50%は考慮する。 一次方程式の解法 おくこと。 さい おる場合は習をした 必ずで良の学生に 過ず良の学生に	バイボーラトランミ なるが、適宜、演演 演習・課題レポート では、 試験に 、	ジスタ、FETそれ 引・到達度試験 30%の割合で割 こよって行い、う 女、指数関数、 投業の際には けっい。 過ます こっい。 である。 でる。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	1ぞれを用いた基本的な回路の動作を 		
受業の進む		ぶ。 基成まる 回算な自よ条 計 いの	同にはオンデマンドには、定期試験40%,発展では東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一般では、東京ので、対象となるので、対象をは、対象のでは、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	よる座学が中心と 別達度試験30%, 施する場合がある 50%は考慮する。 一次方程式の解法 おくこと。 さい おる場合は習をした 必ずで良の学生に 過ず良の学生に	バイボーラトランミ なるが、適宜、演演 演習・課題レポート では、 試験に 、	ジスタ、FETそれ 引・到達度試験 30%の割合で割 こよって行い、う 女、指数関数、 投業の際には けっい。 過ます こっい。 である。 でる。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	にぞれを用いた基本的な回路の動作を を行う。 で付する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 での授業内容で分からない点が残らな ある。この復習レポートは、再試受験		
受業の進む 主意点 受 業 の原		ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 回算な自よ条こ いのう か と と と と と と と と と と と と と と と と と と	同にはオンデマンドには、定期試験40%,発展では東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一個では、東京の一般では、東京ので、対象となるので、対象をは、対象のでは、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	よる座学が中心と 別達度試験30%, 施する場合がある 50%は考慮する。 一次方程式の解法 おくこと。 さい おる場合は習をした 必ずで良の学生に 過ず良の学生に	バイボーラトランミ なるが、適宜、演演 演習・課題レポート では、 試験に 、	ジスタ、FETそれ 引・到達度試験 30%の割合で割 こよって行い、う 女、指数関数、 投業の際には けっい。 過ます こっい。 である。 でる。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	にぞれを用いた基本的な回路の動作を を行う。 で付する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 での授業内容で分からない点が残らな ある。この復習レポートは、再試受験		
受業の進む 主意点 受 業 の原	属性・履何	ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 回算な自よ条こ いのう か と と と と と と と と と と と と と と と と と と	にはオンデマンドに は、定期試験40%, 至 再試験・再試験・再試験の結果を最大 をはしっかりはでは、連続している。 は一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、	よる座学が中心と 別達度試験30%, 施する場合がある 50%は考慮する。 一次方程式の解法 おくこと。 さい おる場合は習をした 必ずで良の学生に 過ず良の学生に	バイボーラトランミ するが,適宜、一大 東習・課題レポート 。これらは、試験に 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大	ジスタ、FETそれ 引・到達度試験 30%の割合で割 こよって行い、う 女、指数関数、 投業の際には けっい。 過ます こっい。 である。 でる。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	でれを用いた基本的な回路の動作を で行う。 他する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 での授業内容で分からない点が残らな ある。この復習レポートは、再試受験 で、数学、回路理論に関する復習を行		
受業の進	属性・履作 ティブラーニ	ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 回算な自よ条こ いのう か と と と と と と と と と と と と と と と と と と	にはオンデマンドに は、定期試験40%, 至 再試験・再試験・再試験の結果を最大 をはしっかりはでは、連続している。 は一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、	よる座学が中心と 別達度試験30%, 施する場合がある 50%は考慮する。 一次方程式の解法 おくこと。 さい おる場合は習をした 必ずで良の学生に 過ず良の学生に	バイボーラトランミ するが,適宜、一大 東習・課題レポート 。これらは、試験に 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大	ジスタ、FETそれ 引・到達度試験 30%の割合で割 こよって行い、う 女、指数関数、 投業の際には けっい。 過ます こっし、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい	でれを用いた基本的な回路の動作を で行う。 他する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 での授業内容で分からない点が残らな ある。この復習レポートは、再試受験 で、数学、回路理論に関する復習を行		
受業の進む 主意点 受業の原	属性・履作 ティブラーニ	ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 回算な自よ条こ いのう か と と と と と と と と と と と と と と と と と と	にはオンデマンドに は、定期試験40%, 至 再試験・再試験・再試験の結果を最大 をはしっかりはでは、連続している。 は一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、	よる座学が中心と 別達度試験30%, 施する場合がある 50%は考慮する。 一次方程式の解法 おくこと。 さい おる場合は習をした 必ずで良の学生に 過ず良の学生に	バイボーラトランミ 演習・課題レポートラトランミ 演習・課題レポート の。これらは、試験に 三角え 三角 関	ジスタ、FETそれ 引・到達度試験 30%の割合で割 こよって行い、う 女、指数関数、 投業の際には けっい。 過ます こっし、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい	でれを用いた基本的な回路の動作を で行う。 価する。合格点は60点以上である。 かラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 での授業内容で分からない点が残らな ある。この復習レポートは、再試受験 で、数学、回路理論に関する復習を行		
受業の進む主意点 受業の原 アクラ	属性・履作 ティブラーニ	ぶ。 基成まる 同算な自よ条こ の ショウング を 上グ り り り り り り り り り り り り り り り り り り	□にはオンデマンドには、定期試験40%,至期試験40%,至期試験40%,至期試験の結果である。 本試験の結果である。 本試験の結果でありまでは、はいるのができません。 はいるのができません。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	よる座学が中心と 別達度試験30%, 施する場合がある 50%は考慮する。 一次方程式の解法 おくこと。 さい おる場合は習をした 必ずで良の学生に 過ず良の学生に	バイボーラトランミ 演習・課題レポート 演習・課題レポート 演習・課題レポート で 演習・課題レポート で 演習・課題で	ジスタ、FETそれ 留・到達度試験で 30%の割合で評 よって行い、主 女、指数関数、 投業の際には することの別をする でいたの。 の週をする でいたのでする。 のののでいたがでする。 はなったののででする。 はなったのででする。 はなったののででする。 はなったののででする。 はなったののででする。 はなったののででする。 はなったののででする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はなったののでする。 はないでないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでする。 はないでないでないでないでないでななななななななななななななななななななななな	でれを用いた基本的な回路の動作を で行う。 価する。合格点は60点以上である。 かラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 での授業内容で分からない点が残らな ある。この復習レポートは、再試受験 で、数学、回路理論に関する復習を行		
受業の進む 主意点 受業の原	属性・履作 ティブラーニ	ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 区 計 いのう 上 グ 週 週 週	にはオンデマンドには、定期試験40%, 乗記験・10条件 では、主、定期が、再記録・再記録・連続を最大には、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	よる座学が中心と 別達度試験30%, 施する場合がある 50%は考慮する。 一次方程式の解法 おくこと。 さい おる場合は習をした 必ずで良の学生に 過ず良の学生に	バイポーラトランミ 演習・課題レポートランミ 演習・課題レポートランミ 演習・課題レポート 高い これらは、試験に 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	ジスタ、FETそれ ・ 到達度試験を 30%の割合で記した。 な 投業のとその関数には が でいたができます。 な 大投業のとのできます。 ・ 一 ト の 要に応じて ・ 一 ・ の 要に応じて ・ ・ ・ の 要に応じて ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	でれを用いた基本的な回路の動作を で行う。 で付う。 で付する。合格点は60点以上である。 かラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 での授業内容で分からない点が残らな ある。この復習レポートは、再試受験 で、数学、回路理論に関する復習を行 □ 実務経験のある教員による授		
受業の進	属性・履作 ティブラーニ	ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 区 計 いのう の 上 グ 週 週 1週 2週	にはオンデマンドに は、定期試験40%, 変 再試験・の結果を最大 本試験の確解とでは かり定に接続して、授業に は、対象として、 は、対象として、 は、対象とは は、対象と は、対。 は、対象と は、対象と は、対象と は、対象と は、対。 は、対象と は、対象と は、対象と は、対象と は、対象と は、対象と は、対。 は、対。 は、対象と は、対。 は、が、 は、が、 は、が、 は、 は、が、 は、が、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	による座学が中心と 別達度試験30%, 注施する場合がある。 50%は考慮する。 近一次方程とは発達した おる場ででは がある。 近一次ことは ではできた。 があずでは ではできた。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	バイボーラトランミ 演習・課題レポーラトランミ 演習・課題レポートランミ 演習・課題レポート の。これらは、試験に 一角 関 で 一角 関 で 一角 で 一角 で 一角 で 一角 で 一角 で	ジスタ、FETそれ ・到達度試験を 30%の割合で記 よって行い、主 枚授業では、の 投業でしての出している。 ができます。 ののものではできます。 ではないのではできます。 ののはできますをます。 ののはできますをます。 ののはできますをますをます。 ののはできますをますをますをますをますをますをまますをますをますをますをますをますをますを	でれを用いた基本的な回路の動作を を行う。 他する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 の授業内容で分からない点が残らな かる。この復習レポートは、再試受験 で、数学、回路理論に関する復習を行 □ 実務経験のある教員による授		
受業の進	属性・履作 ティブラーニ	ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 区 上 グ 週 週 週 週 3週	にはオンデマンドには、定期試験40%, 至東試験40%, 至東試験・の結果を最大当に対して、対象とは、対象としてで、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは	による座学が中心と 別達度試験30%, 活施する場合がある。 50%は考慮する。 たつくことは受性というである。 では、一次方程との関係である。 では、一次方程とのできる。 では、一次方程とのできる。 では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	バイポーラ・ランミ 演習・課題レポーラトラン 演習・課題レポートラン 演習・課題レポート の。これらは、試験に 角え 一角	びスタ、FETそれ 30%の割達度試験できる。 30%の割合できます。 大切では、 大切では、 大切では、 大切では、 大切では、 大ののできます。 できる。ののできます。 できる。ののできます。 できる。ののできます。 できる。 ので。 ので。 のできる。 ので。 ので。 ので。	でれを用いた基本的な回路の動作を を行う。 価する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 この復翼レポートは、再試受験 た、数学、回路理論に関する復習を行 □ 実務経験のある教員による授		
受業の進	属性・履作 ティブラーニ	ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 区 計 いのう の 上 グ 週 週 1週 2週	にはオンデマンドに は、定期試験40%, 変 再試験・の結果を最大 本試験の確解とでは かり定に接続して、授業に は、対象として、 は、対象として、 は、対象とは は、対象と は、対。 は、対象と は、対象と は、対象と は、対象と は、対。 は、対象と は、対象と は、対象と は、対象と は、対象と は、対象と は、対。 は、対。 は、対象と は、対。 は、が、 は、が、 は、が、 は、 は、が、 は、が、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	による座学が中心と 別達度試験30%, 活施する場合がある。 50%は考慮する。 たつくことは受性というである。 では、一次方程との関係である。 では、一次方程とのできる。 では、一次方程とのできる。 では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	バイポーラ・ランミ 演習・課題レポートランミ 演習・課題レポート では、 試験に の これらは、 試験に	びスタ、FETそれ 30%の割達度試験できる。 30%のでいいでは、 大切では、 大切では、 大切では、 はないののでは、 大ののでは、 はないののでは、 では、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 では、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 では、 のの	でれを用いた基本的な回路の動作を を行う。 価する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意するごと。 この復習レポートは、再試受験 で大のもる。この復習レポートは、再試受験 で大の事論に関する復習を行 □ 実務経験のある教員による授		
受業の進む 主意点 受業の原	属性・履作 ティブラーニ	ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 区 上 グ 週 週 週 週 3週	にはオンデマンドには、定期試験40%, 至東試験40%, 至東試験・の結果を最大当に対して、対象とは、対象としてで、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは、対象とは	による座学が中心と 別達度試験30%, 注 施する場合がある。 50%は考慮する。 こかくこと、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	バイボーラ・ランミ 演習・課題レポートランミ 演習・課題レポート 演習・課題レポート では、試験に 一点	びスタ、FETそれ 30%の割達度試験できる。 大学では、一般では、 大学では、一般では、 大学では、一般では、 大学では、一般では、 大学では、一般では、 大学では、一般では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	でれを用いた基本的な回路の動作を を行う。 価する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 この復翼レポートは、再試受験 た、数学、回路理論に関する復習を行 □ 実務経験のある教員による授		
受業の進 受業の原 ファクラ 受業計画	属性・履作 ディブラー : 画	ぶ。 基成まる 回算な自よ条こ 区 上グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	にはオンデマンドには、定期試験40%, 変異、再試験・の結果を最大型論の基かり定に、持ちで、対象となるのでは、対象となるのでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象となるのでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象となるのでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象のでは、対象となるのでは、対象のでは、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	による座学が中心と 別達度試験30%, 注 施する場合がある。 50%は考慮する。 こかくこと、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	バイポーラ・ 演習・課題レポートランミ 演習・課題レポート 演習・課題レポート 演習・記 のいま 一点 では 一点 では 一点 では 一点 では	ジスタ、FETそれ 30%の FETそれ 30%の できます。 知達度試験できます。 おりまます おりまま かった がった がった がった がった がった がった がった がった がった が	でれを用いた基本的な回路の動作を を行う。 他する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意するごと。 この復習レポートは、再試受験 た、数学、回路理論に関する復習を行 □ 実務経験のある教員による授 歴 P型半導体、n型半導体の特徴を説明 、pn接合の平衡状態を説明できる。 ードの動作原理、特性を説明できる。 る整流回路の動作を説明できる。		
受業の進 受業の原 ファクラ 受業計画	属性・履作 ディブラー : 画	 ぶ 基成まる 回算な自よ条こ 区 	□にはオンデマンペートでです。 は、定期鉄・40%・子葉・大変期鉄・40%・子葉・大変期鉄・6結果 を見からい。 一点 は、一点 は、一点 は、一点 は、一点 は、一点 は、一点 は、一点 は	による座学が中心と 別達度試験30%, 注 施する場合がある。 50%は考慮する。 こかくこと、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	バイポーラ・ 演習・課題レポートランミ 演習・課題レポート 演習・課題レポート 演習・記 のいま 一点 では 一点 では 一点 では 一点 では	ジスタ、FETそれ 30%の FETそれ 30%の できます。 知達度試験できます。 おりまます おりまま かった がった がった がった がった がった がった がった がった がった が	でれを用いた基本的な回路の動作を を行う。 価する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意するごと。 での授業内容で分からない点が残らない。 かる。この復習レポートは、再試受験 で、数学、回路理論に関する復習を行 □ 実務経験のある教員による授 歴ア型半導体、n型半導体の特徴を説明 、pn接合の平衡状態を説明できる。 ードの動作原理、特性を説明できる。 る整流回路の動作を説明できる。 ード、フォトダイオードの特徴を説明		
受業の進行 主意点 で業の原 アクラ	属性・履作 ディブラー : 画	 ぶ 基成まる 回算な自よ条こ 区	□にはオンデマンドには、定期鉄40%, 乗ま、東川鉄40%, 乗ま、東川鉄・四番県 東京	による座学が中心と 別達度試験30%, え 150%は考慮する。 150%は考慮の解さら 150%は考慮の解さらに 150%は一次ことは一般では、 150%は一体では、 150%は一体で	バイボーラ・ 適宜、「海豚」 演習・課題レポーラ・ 演習・課題レポート では、 試験に ののでは、 は 角え 注音 のでは では で	びスタ、FET それ	でれを用いた基本的な回路の動作を を行う。 価する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意するごと。 での授業内容で分からない点が残らない。 かる。この復習レポートは、再試受験 で、数学、回路理論に関する復習を行 □ 実務経験のある教員による授 歴ア型半導体、n型半導体の特徴を説明 、pn接合の平衡状態を説明できる。 ードの動作原理、特性を説明できる。 る整流回路の動作を説明できる。 ード、フォトダイオードの特徴を説明		
受業の進行 注意点 で業の原 アクラ	属性・履作 ディブラー : 画	 ぶ 基成まる 回算な自よ条こ 区 修 上 グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	□ にはオンデマの%, 不要 は、定期験・40%, 不要 は、定期験・40%, 不要 表 は の は か ま を か ら に を ま か ら に で が ら に で が ら に で が ら に で が ら に で で が ら に で で が ら か ら に で が ら に で が ら に で で で で が ら か ら に で で で で で で で で で で で で で で で で で で	による座学が中心と 別達度試験30%, 認施する場合がある。 50%は考慮する。 たり、方ではできる場合でする。 でいているではできる場合では、 でいているではできるできる。 でいているできるできる。 でいているではいるできる。 でいているではいるできる。 でいているではいるできる。 でいているではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるでは	バ なるが, 適宜 、	びスタ、FET それ	正でれを用いた基本的な回路の動作を 正行う。 価する。合格点は60点以上である。 かラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 この復習レポートは、再試受験 この復習レポートは、再試受験 こ、数学、回路理論に関する復習を行 実務経験のある教員による授 歴 中型半導体、n型半導体の特徴を説明 、pn接合の平衡状態を説明できる。 一ドの動作原理、特性を説明できる。 る整流回路の動作を説明できる。 一ド、フォトダイオードの特徴を説明 合、ダイオードに関する問題を解ける		
授業の進む 注意点 授 業 の履	属性・履作 ディブラー : 画	ぶ 基成まる 回算な自よ条こ 区 上 グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	にはオンデマントにでする。 は、定期鉄40%, 乗ま、 東試験・の結果と、 連いは、一方でである。 は、定期鉄の結果を最大。 にはオンデマントにでする。 にはオンデマントにでする。 にはオンデマントにでする。 にはオンデマントにでする。 にはオンデマントにでする。 はいるようででは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないではないでは、はないではないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないではないでは、はないではないでは、はないではないでは、はないではないではないでは、はないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで	による座学が中心と 別達度30%, え 150%は考慮する。 150%は考慮の解さら 150%は考慮の解さい。 150%は考慮の解さい。 150%は考慮の解さい。 150%は不場合はできる。 150%は不場合はできる。 150%はできる。 150%は不過できる。 150%は不過できる。 150%は不過できる。 150%は不過できる。 150%はできる。 150%は不過できる。 150%は	バ なるが, 適宜 、	でスタ、FET それ	正でれを用いた基本的な回路の動作を 正行う。 価する。合格点は60点以上である。 シラバスにおける試験の成績を置き換 夏素数の計算等の数学的な基礎知識・ 関数電卓を常に用意すること。 この復習レポートは、再試受験 この復習レポートは、再試受験 こ、数学、回路理論に関する復習を行 □ 実務経験のある教員による授 歴 P型半導体、n型半導体の特徴を説明 、pn接合の平衡状態を説明できる。 一ドの動作原理、特性を説明できる。 る整流回路の動作を説明できる。 一ド、フォトダイオードの特徴を説明 合、ダイオードに関する問題を解ける		

	12週 接合型FETの構造・動作原理・特性 接合型FETの構造・動						拉合型にての様件 動作原					
		12週		型FETの構造・	到/f	原理・特性	接合型FETの構造・動作原理・特性を説明できる。					
	13週MOSFETの構造14週FETの基本増幅			FETの構造・動	协作原	理・特性	MOSFETの構造・動作原理・特性を説明できる。					
				D基本増幅回路	3		FETによる基本増幅回路の動作原理を説明できる。					
	15週		演習	(2)			バイポーラトランジスタ、FET、基本 る問題を解ける。		回路に関す			
	16週 定期試験											
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標												
分類 分野)野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週			
専門的能力	的能力 分野別の専 門工学 情報系分野		情報系分野	その他の学習内容	トランジスタなど、ディジタルシステムで利用される半導体素子 の基本的な特徴について説明できる。			4	後1,後2,後 3,後4,後 5,後6,後 7,後11,後 12,後13			
評価割合												
			定期試験			到達度試験	演習・レポート	・レポート 合計				
総合評価割合			40			30	30	100				
基礎的能力		20			15	15	50					
専門的能力		20			15	50						